

# 文部科学省「研究大学強化促進事業」岡山大学

～世界で研究の量、質ともに存在感を示す大学となる～

平成25年度配分予定額：200百万円

本事業では、強みの研究分野である「物理学」及び「基礎生命科学」分野の研究拠点を軸に、研究特区である『グローバル最先端異分野融合研究機構』を新設し、この研究特区を中心に研究に専念できる制度改革、研究者支援人材としてURAの増強配置及び国際共同研究の推進、産業界との大型連携の強化を図るための研究環境の改革を推進し研究力強化を行う。事業を通し、当該分野で論文数、相対被引用度の高い論文の増大を図り、日本の研究活動の牽引大学になることを目標とする。研究特区で得られた成果は、次期研究拠点候補（サテライト研究コア）に波及する仕組みを構築し、大学全体の研究力強化につなげる。

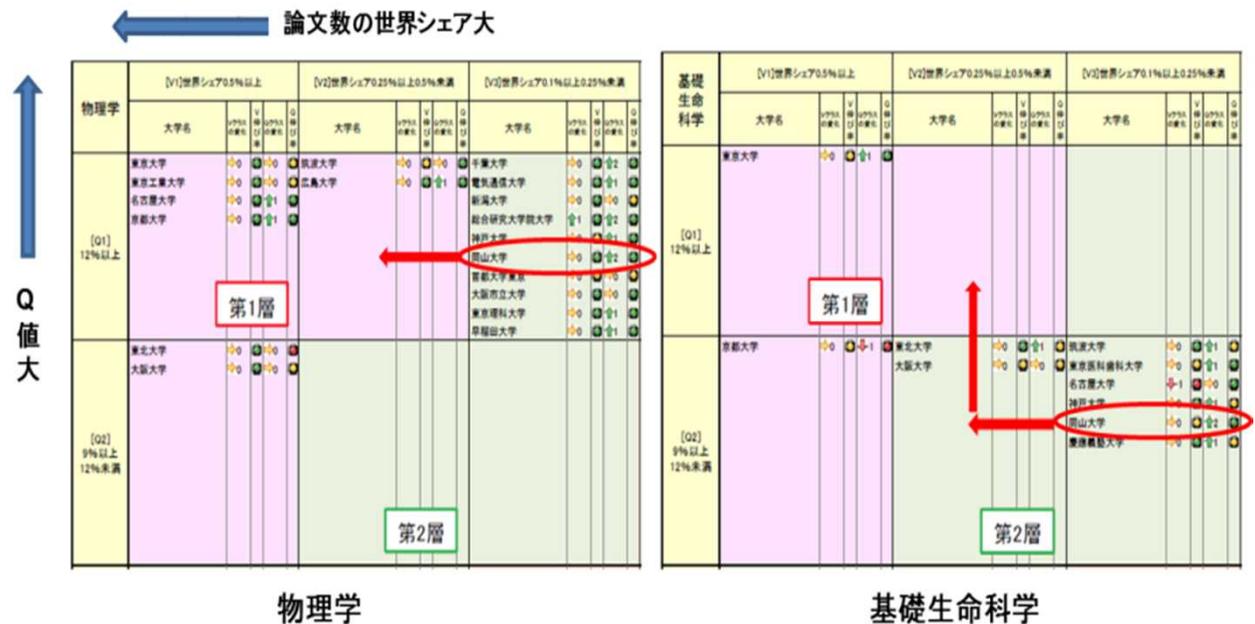
## 強み・弱み分析

### <強み>

・文部科学省の科学技術・学術政策研究所（NISTEP）による岡山大学の強みの研究分野は「物理学」及び「基礎生命科学」であり、過去10年間の論文増加率およびTop10%補正論文数の増加率も高い。

### <弱み>

- ・研究強化拠点においても、研究専念が困難である。
- ・産業界との大型連携が弱い。
- ・技術紹介等の戦略的広報活動の活性化が必要である。
- ・共同実験施設等の有効利用が不十分である。



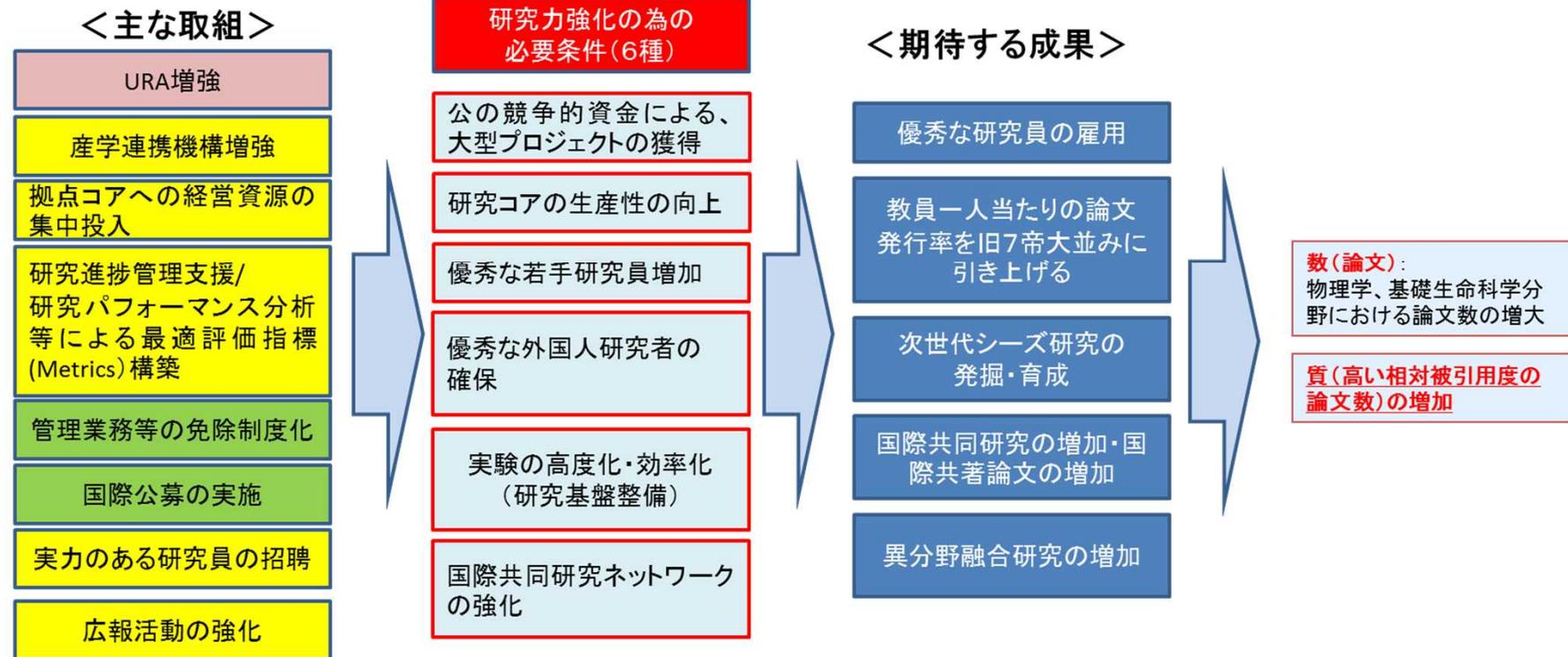
分野における日本の大学の量と質の状況(2007～2011年)

NISTEP「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2011」より

# 文部科学省「研究大学強化促進事業」岡山大学 ～世界で研究の量、質ともに存在感を示す大学となる～

平成25年度配分予定額：200百万円

## 研究力強化方針



上記6種の必要条件の組合せが、研究力強化の十分条件であり、本事業ではこれらの条件を促進する取組を行うことで、研究活動の一層の活性化を推進し、目標達成を目指す。

### 【目標】

当該分野で、世界で量(論文数)・質(相対被引用度)ともに存在感を示し日本の研究活動の牽引大学になる。

# 文部科学省「研究大学強化促進事業」岡山大学 ～世界で研究の量、質ともに存在感を示す大学となる～

平成25年度配分予定額：200百万円

## 研究環境の改革への取組

- ・研究特区「グローバル最先端異分野融合研究機構」(G研究機構)を設置し、重点的支援を行う。



### <G研究機構への重点支援>

- ・研究特区の研究コアへ重点的に経営資源を投入
- ・特別契約職員(教員)の雇用による研究活動の加速
- ・拠点型URAの雇用による、研究推進の加速
- ・国際シンポジウムの開催、国際共同研究推進等の支援
- ・戦略的プログラム支援ユニットの拡充による事務面の重点支援

### <研究推進産学官連携機構の強化>

- ・産学連携、知的財産、研究推進、社会連携における支援強化
- ・研究推進コーディネーター及び知的財産コーディネーター人材増強による支援体制の強化

### <共同実験施設の有効活用による研究支援力強化>

- ・共同利用機器の環境整備
- ・特別契約職員(教員および技術職員)の人材増強
- ・光熱水料等の支援

### <広報活動の強化>

- ・国内外の展示会への積極的かつ戦略的な出展支援
- ・岡山大学研究力強化ポर्टレート等をホームページにて公開
- ・研究成果の積極的配信
- ・サイエンスライターを活用による広報力の強化

# 文部科学省「研究大学強化促進事業」岡山大学 ～世界で研究の量、質ともに存在感を示す大学となる～

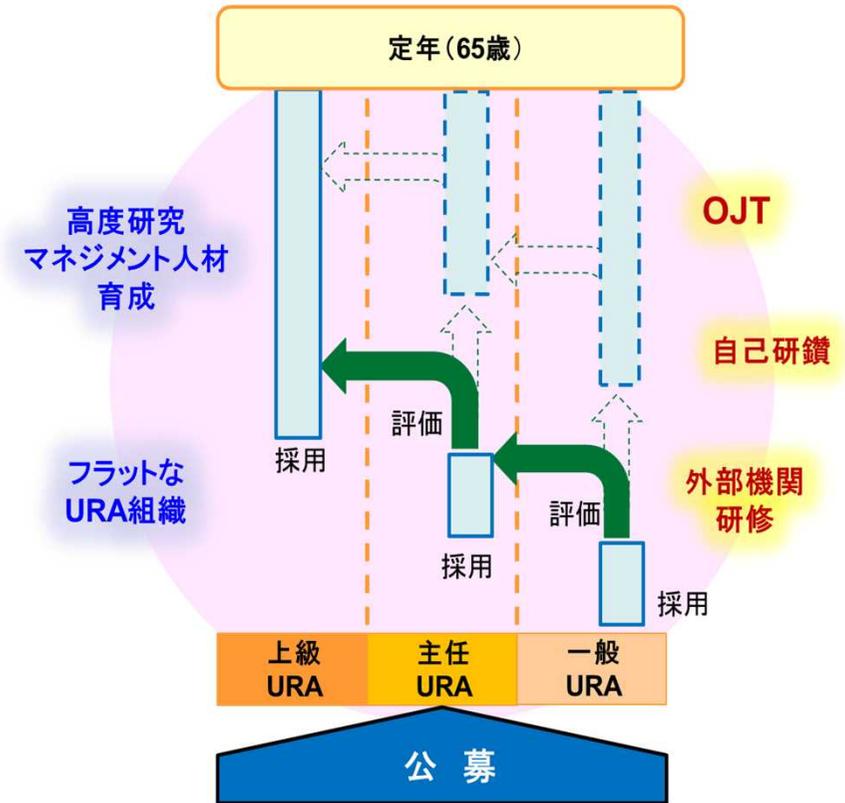
平成25年度配分予定額：200百万円

## 研究マネジメント人材(URA)の確保と育成への取組

- ・自主財源で運用してきた先導的URAシステムを継承し、学長を補佐して研究マネジメントを戦略的に実施
- ・公募による即戦力人材の確保とOJT等による高度研究マネジメント人材の育成
- ・研究特区において、実験現場－事務部門間の業務支援等を執り行うURF(リサーチ・ファシリテーター)の創設
- ・自立したURAメンバーのフラットな組織による、高度な支援の実現
- ・URAは本事業終了後も減員せず、自主財源を用いて継続雇用

## 制度改革への取組

- ・G研究機構の新規雇用者に対する年俸制導入の検討
- ・承継職員に対する年俸制導入に資する情報収集
- ・教育、研究以外の業務免除措置の検討
- ・適切な職種における国際公募の積極的な実施



岡山大学URA  
キャリアパスイメージ